

参考資料及新聞記事

RA'-0456

0259

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

取扱注意

# 国際週報

372号

1. 軍縮小委員会の動き (その四)
2. スターリン批判問題に対する中共の見解
3. セイロンの総選挙と与党惨敗の要因
4. 大統領選挙をめぐる韓国政界の動き

31. 4. 17

外務省情報文化局

RA'-0456

0260

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

この「国際週報」の内容や視測は、正確な資料入手前の  
ものであるから、取扱に注意し、引用を差控えられた。  
(編集担当) 情報文化局第一課

週間日誌

- 四月九日 △ソ連、日本の漁業問題に関する話し合い申し入れに応ずる旨回答。
- 同日 △日タイ貿易取決め調印(バンコック)。
- 同日 △ルイセンコ、ソ連農業アカデミー総裁等更迭。
- 同日 △イニエメン、サウディ・アラビア軍事協定締結。
- 同日 △ハマーショルド国連事務総長レバノン、イスラエル訪問。
- 同日 △セイロン総選挙終了。
- 同日 △ハマーショルド国連事務総長エジプト訪問、ナセル首相と会談。
- 同日 △インドシナ問題に関する英ソ会談はじまる(ロンドン)。
- 四月十日 △米一九五七会計年度の極東援助計画を発表。
- 同日 △バンドラナイケ新セイロン内閣成立。
- 同日 △グランドサールNATO最高司令官辞任、後任にノースウッド大将。
- 同日 △アトルギバ新チエニシア内閣成立。
- 同日 △中共エジプト文化協定調印。
- 同日 △パグダッド条約理事會開く(テヘラン)。
- 同日 △アイゼンハワー米大統領、新農業法案を拒否。
- 同日 △ハマーショルド国連事務総長イスラエル訪問。

一、軍縮小委員会の動き(その四)

(一) 軍縮小委員会は九日より第四週の審議に入ったが、軍縮問題についての各国の提案もようやく出揃い、一般討論を終つて実質的な審議に入った。これまでの各国の提案をめぐり華々しい報道は見られず、落つた実質的な検討の時期に入った一面、依然、東西間に実質的な意見の不一致が存在し、審議が足踏み状況を呈して来たことも見逃し得ないところであらう。

(二) グロムイコ・ソ連代表は、四月七日コペンハーゲンで演説を行ったが、その際「軍縮問題については、大國間の意見一致は前よりも遠のいた」と述べ、「西側側が實際上原子兵器の禁止と廃棄のための協定には反対であることが次第に明らかになつて来た。軍縮計画に原子兵器の廃棄という規定を規定せず、後に検討する」という西側側の示唆は、一歩後退するものである」と西側側を批判し、さらに、モレ、フランス首相は、軍縮およびドイツ問題に対する米国の政策につき、「余りにもソ連を無視し過ぎる」と批判するなど、それぞれ不満の意を表明した。

(三) 九日モリッ・フランス代表は、これまでの各国の提案を分類整理し、新しい案をつくることを提唱したが、グロムイコ・ソ連代表は、「単なる手続問題ではなく、極めて重要な意見の不一致が存在する」として、フランスの右提唱に反対し、スタッセン米代表も、この点には同意を表明し、実質的な意見の相違として、(1)ソ連が米国の空中査察提案を含む管理機構を受諾していかないこと、(2)核兵器管理の提案を受け入れていないこと、(3)米国の提案する一般兵器についての第一段階の削減に同意していかないこと、の三点を挙げたと報じられている。

(四) 小委員会は、六週間の審議の後、中間報告を軍縮委員会に提出することになつており、あと二週間を残すのみで、この間にどれだけ意見の調整ができ、具体的な成果を報告し得るかは、相当に疑問であるが、軍縮問題の進展についてもソ連首脳が英国訪問に若干の期待を寄せているむきもある模様である。(国協二)

二、スターリン批判問題に対する中共の見解

(一) 中共は、去る二月のソ連共産党第二十回大会に朱徳、鄧小平等五名を送り(鄧は三月三日、朱は四月二日北京帰着)、会議の状況、重要な報告、発言、決議等はその都度詳細に報道し、またこれらに示されたソ連の新政策に対してはこれを支持宣伝する論評も加えてきた。しかるにフルシチョフ、ミコヤン等によつて突如行われたスターリン批判に対しては、何等の反応をも示さず、各方面の注目の中に固く沈黙を守つていたが、三月二十八日プラウダが「個人崇拜は何故マルクス・レーニン主義の精神に反するか」と題する社説を発表すると、中共はこれを同三十日詳細に報道した後、四月五日に至つて、中央政治局拡大会議の討論に基いて人民日報編集部が執筆したと称する「プロレタリア階級独裁の歴史的経験」と題する長文の論文を発表して、初めてスターリン批判問題に対する中共の見解を表明した。

(二) スターリン批判が表面化して以来、各国における非共産勢力からする誹謗、共産勢力自体の困惑動揺をよそに、中共が五十日近くの間沈黙を守つていたことについては、中共が従来スターリンに対し絶大な讃辭を呈していた関係や、毛沢東が現在中共においてスターリン的地位にあるかに見えることなどから、中共内部にも相当の混乱が起つて、その收拾に手間取つていたのであるうなどの観測も行われていたが、他方には、中共としてはソ連におけるスターリン批判をどのように受入れどのように発表するかについて、ソ連における真相はもとより各国における反響動向等をも充分に見きわめられた上、中共独自の見解態度を打出すべく慎重に検討を重ねていたものとみて、それは三十三数年にわたる苦闘の歴史をもち、その間深い経験を積み独自の理論を身につけ強い矜持をもつ中共としては当然のことかも知れないとみる向きもある。なお四月五日は、ミコヤンの北京訪問の前日に当たるわけであるが、このタイムイングの問題について、一香港紙は、

毛沢東とかれの審判がクレムリンとの関係において他国の共産党と違つて、単なるあやつり人形と違ふ地位を享有しているのだという信念を貫こうとする意識的企図がある。中共にとつては、このことは中国人民大衆の前にかれらの威信を維持するかそれを失うかというところで大きな意味がある。

と評している(四・六、ホンコン・スタンダード)。なお中共が見解を表明するに当り、人民日報編輯部が執筆した論文という形式をとつたことについては、ソ連がプラウダの社説という形式で詳細な意見を發表していることに対応するものとも考えられるが、一香港紙は、毛沢東が正面から自分自身で批判しなかつたということは問題として残るであろうとし、毛はかれのかつての主人公としてその死後に紛議の渦中に投じた個人崇拜に対するこれ以上の非難に身をさらしたくないとでもいうのであろうかと述べている(前掲紙)。

(三) 中共が發表した論文の要点は後述のとおりであるが、論文全体を通じ著しく注意を引かれる特色および右に對する香港筋の観測を列記すると次のとおりである。

(1) スターリンは、その後期に個人崇拜を喜び重大な誤ちを犯したとし、四つの誤ちを列挙はしているが、一方前期にはレーニンの方針を実現する闘争において「不滅の功績」があり、「マルクス・レーニン主義を創造的に運用し發展させた」、「ある人々はスターリンのすべてが誤りだと思つてゐるが、それは大きな間違で、かれは偉大なマルクス・レーニン主義者である」とし、またスターリンの著作中有益なものは重要遺産として受入れるべしと説き、スターリンの功績の面を強く打出していること。中共のこのようなスターリン批判については、香港の一部では、中共は必ずしもソ連の意見に対し全面的同調を示すものではないとみるものもあり、また中共がこのような態度をとつた理由として、中共首脳部としては、スターリンを急に全面的に非難すれば、中共首脳の権威と見識を疑われる恐れがあること、スターリンを非難したものが将来非難される立場におかれるかも知れないことなどを考慮したためではないかとみるものもある。また一部論者は、中共のこのような行き方は、諸国の共産

党のそれに較べ、独自の立場から客観的な観察を下しているとの印象が強いとし、あるものは、ソ連におけるスターリン批判を盲目的に支持していない点、中共がソ連の単なる衛星国でない、少くともそれでありたぐないという自負を現わしている、あるいはこの自負を貫こうとの企図があるようだと指摘している。

(2) スターリンが誤りを犯したのは、「謙虚な態度をとり大衆と結びつき現実を調査する」ことをしなかつたからだとし、中共は、このような偏向に対処するため、「すでに一九四三年に『大衆路線』と呼ばれていたマルクス・レーニン主義の指導方法を決定しているのであつて、今後これを正確に守つていけば、大衆からの乖離、集団指導の破壊を防ぎうるのである」と力説していること。これは、次の(3)と(4)とともに、毛沢東を中心とする中共党中央が十数年にわたりとつてきた指導方針が、正しいものであるということを極力誇示しようとしているように受け取れる。

(3) 「スターリンが立てた公式のうちのあるものは、中国における一九二七―三六年の内戦当時の条件下にあつては正しいものではなかつたが、一部同志がこれを機械的に中国革命に持込むという誤りを犯したため、中国革命は不利に陥つたとし、さらに一九三七―四五年の抗日戦の際にとつた方針は、この誤りを是正するもので、これは中国革命の状況に合致し正確であつたことが事実によつて証明されている」と説いていること。これは一面スターリンの中国革命に対する見方の不適切さを指摘したものとみられるが、他面ソ連で立てられた方式をそのまま中国に適用することが誤りであることを強調したものとみられ、中共の独自性を誇示しようとしているようにもとれる。

(4) 「中共もかつて幾度か誤りを犯してきたが、これら誤りとの闘争のなかで自らを鍛えて革命と建設において偉大な勝利を収めることができたのである」としていること。この点について、「香港紙は、『ソ連においてスターリンの誤りは死後まで暴露されなかつた。中共の指導者は常に重大な危害を及ぼす前に誤りを発見するこ

とに成功している旨を人民に印象づけよう」と中共はやつぎになつて「思われる」と評している。

中共発表の論文の要点は次のとおりである。

(1) プロレタリア独裁は複雑困難な道を進まねばならず、その過程で誤りを犯すことは避けられない。誤りを少くするため、指導者は謙虚な態度をとり大衆と結びつき現実を調査すべきである。スターリンがその後期の仕事でいくつかの重大な誤りを犯したのは、このようにしなかつたためである。かれはおごりたかぶり、慎重さを欠き、主観主義が生れ、一方的にかたより、誤つた決定を下し重大な悪結果をもたらした。レーニンの方針を実現するために進めてきた闘争では、ソ連共産党中央委員会の強力な指導が収めた功績があり、またその中にはスターリンの不滅の功績があつた。

レーニンの死後、党と国家の主要な指導的人物となつたスターリンは、マルクス・レーニン主義を創造的に運用し発展させ、優れたマルクス・レーニン主義の闘士として決して恥ずかしくない。

スターリンがソ連人民の支持をかちとり、歴史上重要な役割を果すことができたのは、それは何よりもスターリンがソ連共産党の他の指導者たちとともにソヴィエト国家の工業化と農業集団化についてのレーニンの方針を守り抜いたからである。ソ連共産党はこの方針を実行することによつて社会主義制度をソ連で勝利にみちびき、ソ連がヒトラーとの戦いで勝利をかちとる条件をつくりだした。このためスターリンという名前も全世界でひじょうに高い榮譽を受けるようになったことは極めて当然のことである。

(2) ところがスターリンは、彼がレーニン主義の方針を正しく運用して内外の人民の間でひじょうに高い榮譽を与えられたときに自分の役割を實際以上に誇張し、彼の個人的な権力を集団指導と対立させるといふあやまちを犯した。このため自分の種々の行動が彼自身、もともと宣伝してきたマルクス・レーニン主義のいくつかの基本的な見解と対立するという結果になつてしまつた。

マルクス、レーニン主義者は、指導というものは歴史的に大きな役割を果たすものと考えている。人民とその政党は、人民の利益と意志を代表して歴史的な闘争の先頭に立つてきたか、人民大衆を指導する先進的な人物を必要としている。もし個人の役割を認めず、先進的な人と指導者の役割を認めない人がいるならば、これはまったく大きなまちがいである。

スターリンは、彼の一生のうちの後期にますます深く個人崇拜をよるごごにおちいって、党の民主的集中に違反し集団指導と個人の責任は結びつかないという制度に違反し、そのためにつぎのようないくつかの重大なあやまちを犯した。

- 一、反革命分子の粛清でゆきすぎた。
- 一、反ファシズム戦争が起る前当然もつていなければならぬ警戒心に欠けた。
- 一、農業をよりいっそう発展させ、農民の福祉をはかるうえで当然もつていなければならぬ注意に欠けた。
- 一、国際共産主義運動の中でいくつものまちがった意見をだしたりわけユーゴスラヴィヤにたいする問題でまちがった決定を行った。

スターリンは以上のような問題で主観主義におちいり、一方的な片寄つた見解をとつて客観的な実際状況から離れ人民大衆から離れた。

(3) 中共党中央委員会は一九四三年六月主観主義的指導方法に反対するため、「わが党のすべての実際活動においては、凡そ正確な指導というものは、大衆のうちから出て大衆のうちに入っていくものでなければならぬ。……」との決定を行った。これは、「大衆路線」と呼ばれてきたが、マルクス・レーニン主義の指導方法であり、活動方針である。

革命が勝利して労働者階級と共産党が全国の政權を指導する階級と政党となつた現在、われわれの党と国家の

指導的な活動家は、いろいろな面から官僚主義にとりつかれると、国家機関を利用して自分で勝手にきめたり実行したり、大衆から離れたり、集団指導を破つたり、命令主義に陥つたり、党と国家の民主制度を破壊してしまふような極めて大きな危険にぶつかる恐れがある。それ故、大衆路線の指導方法をとることに一層よく注意を払い、決して少しでもゆるがせにすることがあつてはならない。

われわれはまた、個人崇拜に反対するソ連共産党の闘争から教訓を汲みとつて、引續いて教条主義に反対する闘争をくりかへしなくてはならない。

(4) スターリンの著作中有益なものは重要な歴史的遺産として受けつがなければならない。しかし、マルクス主義の研究方法によるべきで、教条主義的方法によるべきではない。スターリンの公式の中に、革命の異つたいろいろな段階において基本的指導方向はその時期の社会・政治勢力の中間層を孤立させることであるというのがある。スターリンのこの公式にたいしてはマルクス主義の批判的な眼で区別しながらこれを見なければならぬ。ある条件下では中間勢力を孤立させることは正しいといえるが、しかし中間勢力を孤立させることがどんな条件下でも正しいのではない。われわれの経験によると革命の主な指導方向は最も主要な敵にむけてこれを孤立させるべきであつて、中間勢力にたいしては統一するとともに闘争するという政策をとつて、少くともこれを中立化し、そして可能な条件下でできるだけの中立的な立場を委ねさせて、われわれと同盟を結び革命の発展に役立つように努力しなければならない。ところが一九二七年から一九三六年までの十年間の内戦のころに、われわれの一部の同志はスターリンのこの公式を機械的に中国革命にもちこみ、中間勢力を一番危険な敵だといつて主な指導方向をこれに向けた。その結果本当の敵を孤立させることができないで、かえつて自分が孤立してしまつて不利な目にあい、本当の敵を有利にした。このような教条主義のあやまちにかんがみ、中国共産党中央委員会は、抗日戦争のとき日本の侵略者をうちまかすために、進歩勢力を發展させ、中間勢力をかちとり頑固な勢

力を孤立させるという方針をとった。  
 として実践の経験は、中国共産党のこの方針が中国革命の状況に合致して正しきものであつたことを立証してゐる。

(6) 中共党も、一九二四年—二七年における陳独秀の右翼日和見主義、一九三〇年の李立三コースおよび一九三一年—三四年における王明(陳紹禹)コースの左翼日和見主義、張國燾の右翼日和見主義、抗日戦期における王明の右翼日和見主義、一九五三年の高崗、饒漱石の反党連盟等の誤りを犯した経験がある。われわれの党もこれらの誤つたコースと闘争してきたなかで自分を鍛えたのであり、こうして革命と建設で偉大な勝利を収めたのである。局部的な誤ちや個別的な誤ちも仕事のなかで時々犯してきたが、これも党の集団的な智慧と人民大衆の智慧によつて時を移さず暴き出され、克服されたからこそ全国的なあやまちや長期間のあやまち、人民に危害を及ぼす大きなあやまちとならなかつた。

共産党員は、共産主義運動のなかで起きた誤ちにたいして、必ずそれを分析する態度をもつてのぞまなければならぬ。ある人たちは、スターリンのすべてが誤りだと思つてゐるが、これは大きな間違ひである。スターリンは偉大なマルクス・レーニン主義者である。  
 しかしスターリンはいくつかの大きな誤ちを犯しながら、それがあやまちであることに気がつかなかつたマルクス・レーニン主義者なのである。われわれは歴史の観点をもつてスターリンを見、そしてその正しい点と間違つてゐる点にたいして全面的な正しい分析を加え、そこから有益な教訓を汲取るべきである。(ア二)

二、セイロンの総選挙と与党惨敗の要因(ア四)

(一) 四月五、七、十日の三日間にわたつて行われた独立後三回目のセイロンの総選挙は、投票の結果バンダラナイ

クの率ゝる人民統一戦線(Mahajana Eksath Peramuna)が一般の予想を完全に裏切つて一方的に進出し、九十五議席中の過半数である五十一議席を獲得し、新政権を樹立することになつた。

これに対しユテラワラ首相の率ゝる与党統一国民党は、前議会で五十四議席を占めていたのが僅か八議席を得たに過ぎなかつた。当選確実とみられていたジャワラチネ蔵相、コリア商相等の七閣僚のほか政務次官五名が落選した。ユテラワラ首相は辛うじて議席を獲得したがその獲得票数は一九五二年五月の第二回総選挙のときに比し遙かに下る八二七四票であつた。

またトロッキスト派のナヴァ・ランカ・サマ・サマジャ党(党首N.M.ペレラ)が十四議席を獲得して第二党となり、共産党(党首ビーター・クネマン)が三議席を占め、全体として極左系が十七議席と大幅に進出したことが注目される。

各党派別の立候補者および当選者数は左の通りである。

党派名	立候補者数	当選者数
人民統一戦線	五九	五一
ナヴァ・ランカ・サマ・サマジャ党	二〇	一四
統一国民党	七七	八
連騎党(タミール)	一五	一〇
共産党	一〇	三
その他諸派	一六	二
無所属	五二	七
計	二四九	九

今回の総選挙は、下院議席総数百五の中九十五議席について行われたもので、残り十議席は総督の任命する議員であり、四議席は一九五四年一月ニュー・デリーにおいて締結されたネルー・コテラワラ協定にもとづき新たにセイロン籍を取得したセイロン在住インド人から別途選出されることになつてゐる。

(一) コテラワラ首相が明年五月の選挙期日を特に一カ年以上繰上げ、今般実施した理由は、さる二月十八日の統一国民党年次大会において決定をみた「シン・ハリズ語を現行の英語と置替へ公用語とする」旨の重大な政策変更に対し国民の信を問うとともに、右政策実施のための憲法改正に必要な三分の二以上の多数議席(六十五議席)を得るためであると表面上言われているが、その内面の理由は、(1)人民統一戦線の党首バンダラナイクが統一国民党に先立ちシン・ハリズ語の公用化を唱え、同人および同党幹部のシン・ハリズ語による政府攻撃の弁舌が多数の仏教徒および一般大衆に好評を博しはじめたこと、またセイロン政界に隠然たる勢力をもち、かつコテラワラ政権に強い不満を抱いて統一国民党を去つた前総理D・セナナヤクおよび前首相R・G・セナナヤク一派とバンダラナイクが連繫するきざしが現われたので与党としては選挙を急ぐ必要があつたこと、(2)コテラワラ首相の提唱による南アジア五カ国首相会議の開催、同会議の結果にもとづくバンドン会議の開催、さらに昨年末のセイロン国連加盟実現等により国民の人氣が与党に集つてゐると察した事等にあるといわれている。

(二) しかるに選挙の結果は、与党の惨敗に終つた。この与党惨敗の原因としては、(1)統一国民党が独立以来八年間政権を保持してきたゆゑ人心に新政権を求める氣運が醸成されてゐたこと、(2)コテラワラ政府が内政面よりも国際場裡の活躍に重点をおき過去において配給制度の不手際から米、砂糖の値上りをもたらしたことおよび(3)野党各派が立候補の指名後直ちに政綱を発表したのに反し、統一国民党は三月二十日をすぎず漸く発表したこと等があげられるが、次の二点が根本的な原因とみられている。

1. 統一国民党は、同党の組織上の背景である地主、資本家を中心とする封建的指導層の意向に迎合することに、つて、過去二回の総選挙において過半数を獲得してきたため、今回も指導層に対する働きかけに終始して、一般大衆との接触を怠つたこと。

2. コテラワラ内閣が仏教に対し冷淡で、仏教徒の意向に留意しなかつたこと、特に今般仏僧一般の仏陀二千五百年祭終了後行ふべしとの強い要望を無視して、総選挙実施の挙に出で仏教界の反響を買うに至つたこと。

(四) なお今回大勝を博した人民統一戦線は、全セイロン自由党を中心に、全セイロン・パシヤ・ベナムナ党ヴィアラヴァリ・ランカ・サマ・サマジャ党および一部無所属によつてさる二月結成された新政党である。その主義、主張とするところは、シン・ハリズ語公用語化政策に関する限り統一国民党と何等変るところはないが、(1)共和国の設立(2)重要産業の国有化(3)英・セ防衛協定の廃棄による英軍事基地の撤去等を選挙スローガンに掲げていること、またバンダラナイクが七日「私はセイロンが中共およびソ連と外交関係を樹立することを支持する。但しセイロンはいずれのブロックにも入らない」と言明したことは、西欧諸国特にセイロンに大きな経済的、軍事的利権をもつ英国およびさる二月五百万ドルの対セ技術、経済援助を決定した米国に大きな打撃を与えてあり、十二日成立したバンダラナイク新内閣今後の動きが注目される。(ア四)

#### 四、大統領選挙をめぐる韓国政界の動き

(一) 韓国政府は三月二十八日、正副大統領選挙を来る五月十五日に施行すべき旨を公告し、これに基づいて中央選挙委員会は立候補登録期間を二十九日から四月七日までとする旨を発表した。

同締切日までに大統領候補には李承晩(自由党)、申翼熙(民主党)、曹奉岩(進歩党)の三名が、また副大統領候補は次の八名がそれぞれ登録を終つた。

李 起 鵬 (自由党)

- 張 勉 (民主党)
- 朴 己 出 (進歩党)
- 尹 致 映 (大韓国民党)
- 李 允 榮 (朝鮮民主党)
- 李 範 爽 (無所属)
- 白 性 郁 ( )
- 李 鐘 泰 ( )

(一) 以上の如く大統領選挙では李、申、曹の三巴戦となり、副大統領選挙は八名の乱立となったが、各党の今次選挙に対する態度は概ね次のとおりとみられている。

まず政府および与党自由党では、今次大統領選挙に備えて既に一九五四年十一月末、李承晩現大統領の三選制限撤廃を主要な骨子とする改憲案を強引に通過させ、引続いて反党的分子を除名して党内の整備強化を図るところがあつた。ついで本年三月初めには他党にさきかけて全党大会を開催して、現在の大統領であり、党の総裁である李承晩を次期大統領候補に、また李起鵬現国会議長を副大統領候補にそれぞれ指名した。

この指名を受けた李大統領は、突然出馬しない旨の声明を発表して政界に波紋を投げかけたが、李大統領は、前回の大統領選挙(五二年八月五日)でも、最初は不出馬を声明しておきながら後になつて出馬した前例があり、これは李大統領が全国民の支持を得て出馬を余儀なくされたとの形をとらなうために予め描いた筋書とみられた。

果せるかな自由党および同傘下諸団体では、李大統領の出馬を要請する大がかりな「国民運動」を展開し、これには約二週間に四七〇万名以上がデモ行進や血書要請などを行つて参加したといわれた。かくて李大統領は三月二十三日「国民の要望もだし難く」云々と声明して出馬を明らかにし、さらに二十八日、副大統領候補として自由党

の指名した李起鵬を支持する旨の談話を発表し、

(二) かかる政府および自由党の動きは、野党各派の活潑な動きを誘発することになった。各流の性格とその推薦候補をみれば次のとおりである。

(1) 民主党 五五年九月十九日、旧民主国民党を中核体とし、これに興士団(クリスチャン系)と元国会議員の経歴を有する反自由党分子等が参加して結成されたもので、代表最高委員には申賢熙、最高委員に趙炳玉、張勉、郭尙勲、白南燕が選出されている。本年三月二十八日、今次正副大統領候補指名のための全党大会を開催し、大統領候補として申賢熙、副大統領候補に張勉をそれぞれ選出決定した。四月十一日には第一回政見発表会を開き、中小企業振興と農村行政の向上につとめ、諸行政部門の刷新を図ることを公約した。

(2) 進歩党(仮称) 五五年十二月二十二日、曹奉岩(元国会副議長、共産党から転向し、青年進歩層からの支持を受けている)、徐相日(元民主国民党最高委員)を中心とする発党推進準備委員会が組織され、現在なお結党準備段階にあるが、国政の革新と朝鮮の平和統一を公約した。今次選挙に関しては三月三十一日、全国推進委員代表者会議を開き、大統領候補に曹奉岩を、副大統領に徐相日をそれぞれ推薦した。しかし、徐が辞退したため、その後あらためて朴己出(党総務委員)が推薦された。

(3) 共和党 昨年十二月二十三日、いずれも元國務総理の経歴を有する張沢相と李範爽(この両名は五二年の憲法改正に当り李大統領を助けて活躍したが、その後李大統領の忌諱にふれて野に下り、殊に李範爽は自由党内民族青年団派のリーダーと目され、党籍を剥奪された)および裴恩希(自由党系老壮派)を中必に、いわゆる族青系勢力を地盤として発足し、三月三十日開催された結党大会では前記三名がそれぞれ最高委員に選出された。しかし、副大統領候補指名問題をめぐつて、いわゆる族青系と非族青系との対立が生じ、結党わずかにして早くも分裂する結果となつた。即ち族青系は四月一日、中央執行委員会を開催し、李範爽を副大統領候補に指名すると同

RA'-0456

0268

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

時に、一方的に党部署の総務委員を構成したため、張次相を中心とする非族書系はこれを不満とし、裴恩希の調停もむなしく、四日に至り相互に非難声明を発するにあよび、事実上完全に分裂した。

かくて各派は野党連合に失敗して各々その推薦候補を擁して今次選挙へ臨むこととなつたのであるが、政府および与党の態度に対しては、(1)李大統領の不出馬声明ならびにこれに伴う「国民運動」は与党側の巧な選挙戦術である、(2)選挙の早期実施は選挙費を百万圓に制限したことともに、野党の選挙運動を不可能ならしめるものである。と口を揃えてその遺口を非難しており、殊に申選照民主黨最高委員の如きは、李大統領の長期留任は独裁を招くとし、「もし李大統領が前回同様警察の干渉により三選されれば、国内的にも国際的にもマイナスになる」と述べている。

しかし、与党自由党が選挙対策を積極に進めているのに反し野党各派の立運れは著しく、現在のところ、一般の予想で李大統領の三選は既定の事実視されており、関心はむしろ李大統領の後継者としての副大統領に集中され、もし野党が統一候補を立て、連合戦線をしような場合には、自由党候補の李起鵬と五分五分の闘いを進め得るが、乱立では野党側の勝目はないとされている。しかし最近に至り、民主党、進歩党を中心とする野党連合戦線形成運動のきざしもあるもので、もしそれが成功するに依りては、少くも副大統領選挙の結果は逆轉し難いものがある。(一)

(外務省)



ソ、中共と外交関係  
 米ハ統一戦線党主が言明

【ワシントン十四日電】ソ連共産党第一書記フルシコフは十四日、ソ連共産党中央委員会の閉幕後、記者団に演説した。フルシコフは、ソ連共産党は、米共産党と統一戦線を結ぶべきであると主張した。フルシコフは、ソ連共産党は、米共産党と統一戦線を結ぶべきであると主張した。フルシコフは、ソ連共産党は、米共産党と統一戦線を結ぶべきであると主張した。

# 誤った安全感指摘

セイロンと米政府への批判激化

【ワシントン十四日電】米共産党は十四日、セイロンと米政府への批判を激化させた。米共産党は、セイロンと米政府は、米共産党と統一戦線を結ぶべきであると主張した。米共産党は、セイロンと米政府は、米共産党と統一戦線を結ぶべきであると主張した。米共産党は、セイロンと米政府は、米共産党と統一戦線を結ぶべきであると主張した。

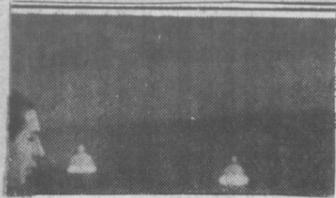
**人民統一戦線が圧勝す**  
**セイロン総選挙**  
 【ロンドン(ハロウ)八日七電】セイロン総選挙は七日(日)の投票の結果、人民統一戦線の圧勝が確実となり、人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネが首相に選出された。人民統一戦線は、全議席の約七十パーセントを獲得した。人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネは、選挙後、記者団に演説し、人民統一戦線の勝利は、セイロンの人民の勝利であると述べた。人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネは、選挙後、記者団に演説し、人民統一戦線の勝利は、セイロンの人民の勝利であると述べた。

**左派がさらに進出**  
**セイロン政府敗北決定的に**  
 【ロンドン八日七電】セイロン総選挙は七日(日)の投票の結果、人民統一戦線の圧勝が確実となり、人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネが首相に選出された。人民統一戦線は、全議席の約七十パーセントを獲得した。人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネは、選挙後、記者団に演説し、人民統一戦線の勝利は、セイロンの人民の勝利であると述べた。人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネは、選挙後、記者団に演説し、人民統一戦線の勝利は、セイロンの人民の勝利であると述べた。

【ロンドン八日七電】セイロン総選挙は七日(日)の投票の結果、人民統一戦線の圧勝が確実となり、人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネが首相に選出された。人民統一戦線は、全議席の約七十パーセントを獲得した。人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネは、選挙後、記者団に演説し、人民統一戦線の勝利は、セイロンの人民の勝利であると述べた。人民統一戦線の指導者である、ジャヤワルダネは、選挙後、記者団に演説し、人民統一戦線の勝利は、セイロンの人民の勝利であると述べた。

東京

31. 4. 10



# 全仏教徒を敵に回す

## 首相 国内より海外で栄光望む

「ゴテラワラ内閣」敗れたり  
セイロン  
総選挙

セイロン(スリランカ)の自由選挙は、連年敗れ続け、今度の選挙は、国内の最大内閣の崩壊を招き、上野の統一国民院が連任された。自由選挙は、セイロン人の最大内閣の崩壊を招き、上野の統一国民院が連任された。

セイロン(スリランカ)の自由選挙は、連年敗れ続け、今度の選挙は、国内の最大内閣の崩壊を招き、上野の統一国民院が連任された。

セイロン(スリランカ)の自由選挙は、連年敗れ続け、今度の選挙は、国内の最大内閣の崩壊を招き、上野の統一国民院が連任された。

セイロン(スリランカ)の自由選挙は、連年敗れ続け、今度の選挙は、国内の最大内閣の崩壊を招き、上野の統一国民院が連任された。

セイロン(スリランカ)の自由選挙は、連年敗れ続け、今度の選挙は、国内の最大内閣の崩壊を招き、上野の統一国民院が連任された。

# 野党39議席を獲得

## セイロン選挙 与党八議席の惨敗ぶり

セイロン(スリランカ)の自由選挙は、連年敗れ続け、今度の選挙は、国内の最大内閣の崩壊を招き、上野の統一国民院が連任された。

RA'-0456

0272

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

# Eksath Peramuna issues program

The following is the joint program of the Mahajana Eksath Peramuna:—

At this critical juncture of our country's history when grave and growing dissatisfaction with the present administration has created in the minds of the people a strong desire for a feasible alternative Government to the U.N.P., we the following parties and groups namely, Sri Lanka Freedom Party, Lanka Samasamaja Party (Vipavakari), Samasta Lanka Sinhala Bhaas Peramuna and Independent Group have agreed to form a joint front bearing the name of "Mahajana Eksath Peramuna" under the leadership of Mr. S. W. R. D. Bandaranaike with an agreed program on the following fundamental issues:—

The present constitution was framed while we were still under colonial government in 1946, and was amended in 1947 to extend what amounted to Dominion Status without due consideration of the constitutional needs of a free people. Therefore, the constitution needs amendment in various respects some of which are: a reconsideration of the position of the Senate, the abolition of Appointed Members, the definition of democratic and economic rights, and the establishment of a democratic republic.

## Foreign Affairs

Our foreign policy must be governed by the paramount need, in the interest of our people, of preserving peace. This object is best achieved by our country steering clear of involvement with power blocs and by the establishment of friendly relations with all countries. Therefore no bases can be permitted in our country to any foreign power, and all foreign troops must be immediately withdrawn from our country.

## Religion

While realising the position of Buddhism in this country as the faith of a large majority of the people we guarantee the fullest freedom of worship and conscience to all, and accept the position that there shall be no discrimination on religious grounds. We generally approve the recommendations of the report of the Buddhist Committee of Inquiry.

## Official Language

Immediate provision must be made in the Constitution Order in Council declaring Sinhalese to be the only Official Language of the country, and immediately thereafter the necessary steps taken for the implementation of this provision. This will not involve the suppression of such a minority language as Tamil, whose reasonable use will receive due recognition.

## National Planning

We shall give top priority to the preparation of a real plan for development as well as social services, and request our taxation system according to the needs of that plan, relieving the poor and the middle classes from the burden that now falls on them, particularly by taxation of necessities, and by adjusting the other taxes in a manner that will ensure the greatest possible stimulus to economic development. The cost of living will be reduced by lowering the price of necessities like rice and sugar and by reconsideration of the present policy of rationing.

## Education

We shall re-organise the system of education to meet to the fullest spiritual, cultural, social and economic needs of the country.

## Health

While remedying defects in general organisation and in staffing, accommodation, equipment, drugs and dieting in hospitals, it is necessary to define the position of Western medicine and Ayurveda, and the relations between them, so that the country may gain the fullest benefit from both systems. In order to achieve this object, it is particularly necessary to give every encouragement to the Ayurveda system.

## Housing

While assistance is given to private enterprise, the State must accept primary responsibility for this service through the Central Government as well as Local Authorities, and the necessary financial provision for this purpose must be made. Steps must be taken to make available building material at economic rates and in adequate quantities; and priorities must be fixed for different classes of buildings, top priority being given to residences necessary for the people.

## Social Services

We shall immediately introduce health and unemployment insurance and old-age pensions. The various sums expended on relief in times of floods, drought etc. and allowances paid to T.B. patients and their dependents, dependents of prisoners, and those suffering from diseases such as leprosy, will be made in adequate measure.

## Agriculture

All steps necessary to increase the national wealth by improvement of agriculture will be taken by intensive cultivation of land already under cultivation, by opening up without delay the vast extent of land still uncultivated, and by diversification of agriculture.

The needs of the landless peasant will be effectively provided for by village expansion schemes, that will make the villages economically self sufficient and by colonization schemes in which the ownership of the land will be vested in the peasant, and all necessary assistance given to them by the State until the land is developed.

## Industries

All key industries must be run by the State. Small industries such as cottage industries can be in the hands of private enterprise.

Priority must be given to agricultural industries such as paddy, cotton and sugar-cane, and such other industries as sugar, textiles, fisheries, salt and fertilizers.

## Employment

Steps will be taken to provide full employment for our people on satisfactory wages and conditions of service. There will be no discrimination on language grounds.

## Labour

(a) Legislation will be introduced to compel employers of industrial labour to provide their employees with housing.

(b) Full Trade Union rights will be extended to all workers.

(c) We shall ensure to all workers such fundamental rights as an eight-hour working day, guaranteed minimum wages and pension or provident fund schemes.

## Public services

We will take all necessary steps to ensure contentment and efficiency in the public services. Full Trade Union rights will be accorded to public servants.

## Local Government

We shall take all steps necessary to ensure the independence and efficiency of Local Governing Bodies, by establishment of Regional Councils, by providing necessary funds and by defining more satisfactorily the powers and duties of Local Bodies, and their relations with the Central Government.

## Commerce and trade

All steps necessary will be taken to ensure that the Trade and Commerce of our country are in Ceylonese hands.

## Ancient cities

We will complete without delay the New Town of Anuradhapura, and take all steps necessary for the preservation of the ancient city of Anuradhapura as well as other ancient cities and monuments.

## Repressive legislation

We shall repeal the Public Security Ordinance, Police Amendment Act, Trade Union Amendment Act and all undemocratic Public Service Regulations, and similar restrictions and invasions of public and personal rights. Particularly those affecting freedom of association, assembly and speech.

## Nationalisation

All essential industries, including foreign-owned plantations, Transport, banking, and insurance, will be progressively nationalised.

## Indian problem

We will solve this problem by adequately safe-guarding the interests of our citizens, while giving all reasonable encouragement to non-citizens to register themselves as Indian Citizens. We will take all necessary steps effectively to stop illicit immigration to our country.

## Bribery

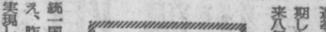
We will adopt stringent measures to stamp out all forms of bribery, corruption and nepotism.

31. 4. 60

# 野党勝利のセイロン総選挙



コテラワラ首相



バンダラナイケ氏

## 中立色、濃くなる コテラワラ首相の誤算

野党勝利のセイロン総選挙。野党指導者大勝。新首相コテラワラ氏。バンダラナイケ氏。中立色、濃くなる。コテラワラ首相の誤算。...

## 機知と雄弁の人 バンダラナイケ氏

【ロンドン二十日路透電】五月十七日、同国議院で野党指導者バンダラナイケ氏が...

# Parliament dissolves tonight, says Sir John

(By a "Daily News" reporter)

The Prime Minister, Sir John Kotelawala, announced yesterday in Colombo that he would advise the Governor-General to dissolve Parliament today, immediately after the annual UNP session in Kelaniya decided in favour of making Sinhalese the State language of the country.

The Governor-General is expected to issue a proclamation dissolving Parliament tonight.

It is expected that nominations for the general election will be on March 8, and the country will go to the polls on April 5, 7 and 9.

Addressing yesterday's annual meeting of the U.N.P. Youth League, held at "Sri Kotha," the Prime Minister said that once the resolution calling for the adoption of Sinhalese only as the official language was passed, it meant that a democratic decision had been taken by the party and thereafter everyone should accept it.

He gave an assurance that his party would take steps to implement it, by passing legislation to give effect to the resolution in schools and government departments.

## The reason why

Answering the criticism made by his opponents for his failure to amend the Constitution to provide for the adoption of Sinhalese only as the state language, Sir John said that the U.N.P. did not have the two-thirds majority in Parliament to do so. After the party started fashioning its policy to provide for "Sinhalese only," several M.P.s had left the party and it was impossible to obtain the requisite majority. Mr. S. W. R. D. Bandaranaike had offered to help make up the two-thirds majority, but the S.L.F.P. had only seven members in Parliament.

The Prime Minister emphasized that to make up the two-thirds, he would on no condition join with the Communists and Samasajists to obtain their votes. He was not a leader of the calibre of Mr. Bandaranaike whose "slimy policy" had driven him to conclude electoral pacts with the Marxists and Communists.

## Minorities reassured

Sir John assured the minority communities that they need have no fear about losing their rights or privileges after Sinhalese was declared the official language. If this government had safeguarded their rights and privileges all these years why could not that same government continue doing so? he asked.

Answering once again those who agitated for postponement of the General Election because of the impending Buddha Jayanti celebrations, the Prime Minister said that this year marked the 2,500 anniversary of the landing of Vijaya, and as such there was no better time to give the Sinhalese language its rightful place and to obtain a mandate from the people for doing so.

Continuing, the Prime Minister extolled the intrinsic value of a democratic form of government which the people of Ceylon were so fortunate as to enjoy.

Exhorting youth leaguers to stand by their country at all times like true patriots, the Prime Minister cited the Japanese who were famous for love of their country. If a time came to defend the country against onslaughts by enemies, the youth of Sri Lanka should all join the fighting forces and fight for their native land.

## Guard of honour

The Prime Minister on arrival at "Sri Kotha" was received by the youth leaguers who provided a guard of honour.

He was welcomed by the Joint Secretary of the league. Messrs. Wimal Rohana and Jinadasa Nivathipala.

Senator U. B. Wanninayake, Parliamentary Secretary to the Minister of Finance who spoke after Sir John occupied the presidential chair, advised members of the youth league to bring home to the people the great work accomplished by the U.N.P. for the progress of the country.

Mr. Ananda Tissa de Alwis advised youth leaguers not to be misled by propaganda disseminated by the S.L.F.P. and the Sin-

halese Bhasa Peramuna. The one party which could make Sinhalese the state language was the U.N.P. Sir Ukwatte Jayasundera, General Secretary of the party, sang Sinhalese verses in praise of the Prime Minister. Messrs. Bandula Dodampegama, Derwin Fernando, S. de S. Jayasinghe M.P. and George Kotelawala also spoke.

## P.M. asks 'sandesa' bearers to help win election

(By a "Daily News" reporter)

Ten young men who had cycled from Ruanwella to Colombo, met the Prime Minister in Colombo yesterday and handed over a "sandesa" urging that Sinhalese be made the state language.

The Premier assured them that today's UNP sessions would decide in favour of Sinhalese only. He asked the youths to go back to Ruanwella and to proceed in 10 different directions in the area, and ask the people to return the UNP with so that the party would have sufficient strength to change the constitution and make Sinhalese the state language.

The Prime Minister added that the present parliamentary representative for Ruanwella had done little for his electorate though he had represented it for several years, and said that if the UNP nominee were returned he (the P.M.) would see that the electorate was not neglected.

Mr. K. Premadasa, Deputy Mayor of Colombo, who is contesting Dr. N. M. Perera at Ruanwella was present when the young men met Sir John.

# Cries of 'Jayawewa' as motion is passed

(By a Sunday "Observer" Reporter)

THE United National Party decided yesterday by an unanimous show of hands that Sinhalese alone should be the State language of Ceylon.

This decision was taken by 1,200 delegates from every U.N.P. Branch Union in the Island at the historic eighth annual conference of the party held at "Ostia Theatre," Kelaniya yesterday.

A "Gees" or "hands" shot up as the Prime Minister put the question to the assembly at the close of a four and half hour session. The time was approximately 4-05 p.m.

"Are there any against it?" the Prime Minister asked.

There was no response. Repeated applause and cries of "Jayawewa" greeted the announcement that the session had passed the Sinhalese only motion.

The Prime Minister, Sir John Kotelawala then said: "You have today without a dissentient vote declared your verdict on a momentous national issue. The implementation of this resolution will involve a change not only in our Party's policy but also a change in the policy successive governments have followed since independence.

"It is therefore my duty as a democratic leader to appeal to the country and obtain the nation's mandate. I propose to do so at once.

"I am now proceeding to advise His Excellency the Governor-General to dissolve Parliament. I earnestly hope that the people's voice will be clearly expressed in our favour to enable me to form a government which will as its first item of business seek by amending the Constitution at once by legislative and administrative measures to implement the resolution that Sinhalese alone should be made the State language of Ceylon.

## Historic era

"We are a fortunate people to be living in an historic era like this," said Sir John. "This was the year when on November 23, 2,500 years ago Prince Vijaya came to Ceylon. This is also the 2,500th year of the Buddhist era which we are going to celebrate.

"It is my greatest fortune to have been born a Sinhalese and to see this day as your leader and prime minister when Sinhalese has come back to its own pride of place as the state language of Ceylon this day."

Twenty-four delegates, including the leaders of the Muslim and Moor communities and two Tamils supported the Sinhalese only motion proposed by Mr. D. C. W. Kannan-gara, M.P. for Panadura and seconded by Mr. Ananda Tissa de Alwis, Asst. Secretary of the U.N.P. and the U.N.P. candidate for Kotte.

# U.N.P. nominates 70 candidates

(By a Sunday "Observer" reporter)

SEVENTY nominations were approved by the Nominations Board of the U.N.P. presided over by Sir John Kotelawala.

Sir Ukwatte Jayasundera, General Secretary of the Party, told me that the U.N.P. would in all nominate 80 candidates and the other four including nominations to a multi-member constituency will be finalised in the next few days.

The following is the official list of nominations released at midnight yesterday by Sir Ukwatte Jayasundera, which tallies with the unofficial list published exclusively in the "Observer" of February 1.

## NOMINATIONS

Nattandiya—Sir Albert Peries—But Sir Albert as speaker is coming forward as an independent without actual Party nomination.

Agalawatta: Mr. C. W. W. Kannangara.

Akuressa: Mr. D. C. Wanigasekera.

Alutnuwara: Mr. E. B. Dimbulana.

Ambalangoda-Balapitiya: Mr. Ian De Zoysa.

Anuradhapura: Mr. P. B. Bulankulame Dissawe.

Attanagala: Mr. A. W. G. Seneviratne.

Avisawella: Mrs. Clodagh Jayasuriya.

Baddegama: Mr. H. W. Amarasuriya.

Badulla: Mr. S. A. Peiris.

Balangoda: Mr. E. W. Mathew.

Bandarawela: Mr. K. V. D. Sugathadasa.

Beliatta: Mr. D. P. Atapattu.

Bingiriya: Mr. D. P. Mellowaratchi.

Buttala: Mr. Gladwyn Kotawala.

Chilaw: Mr. Shirley Corea.

Colombo Central: Dr. M. C. M. Kaleel.

Colombo South: Mr. T. F. Jayawardena.

Dambulla: Mr. H. B. Tenne.

Dandagamuwa: Mr. Rekawa.

Dealgama: Mrs. Wimala Kannangara.

Dehiowita: Mr. C. Dervin Fernando.

Deniyaya: Mr. Victor G. W. Ratnayaka.

Dodangaslanda: Sir John Kotelawala.

Galle: Mr. T. B. Panabokke.

Galle: Mr. D. S. W. Abeygunawardena.

Gampaha: Mr. J. D. P. Perera.

Gampola: Mr. M. W. R. De Silva.

Hakmana: Lt. Col. C. A. Dharmapala.

Hambantota: Mr. C. F. W. Edirisuriya.

Haputale: Mr. W. A. Ratwatte.

Horana: Mr. M. D. H. Jayawardana.

Horowupotana: Mr. Hurulle.

Ja-Ela: Mr. G. J. Paris Perera.

Kadugannawa: Major E. A. Nugawela.

Kalutara: Mr. P. A. Gooray.

Kandy: Mr. E. L. Senanayaka.

Kegalle: Mr. Winston Wickromasinghe.

# UNP nominates 70 candidates

(Continued from page 1)

Kelaniya: Mr. J. R. Jayewardene.

Kiriella: Mr. A. E. B. Kiriella.

Kotagala: Mr. U. B. Unamboowe.

Kotte: Mr. Ananda Tissa De Alwis.

Kurunegala: Mr. D. B. Welegedera.

Maskeliya: Mr. P. H. C. Silva.

Matara: Mr. D. H. Pandita Gunawardena.

Matugama: Mr. A. C. Gooneratne.

Maturata: Mr. M. D. Banda.

Mawanella: Mr. N. H. Keertipratne.

Medawachchiya: Mr. S. H. Mahadulweva.

Mintpe: Mr. R. W. Tennekoon.

Mirigama: Mr. J. E. Amerasinge.

Nawalapitiya: Mr. Edmund Wijesuriya.

Negombo: Mr. T. Quentin Fernando.

Nikaweratiya: Mr. Kaviesna Herat.

Nivitigala: Mr. H. W. W. Rajagama.

Nuwara Eliya: Mr. P. F. Sumathilleke.

Panadura: Mr. D. C. W. Kannangara.

Polonnaruwa: Mr. George Kotawala.

Ratnapura: Mr. C. E. Attygalle.

Ruwanwella: Mr. E. Premadasa.

Udugama: Mr. E. D. Nagahawatta.

Wariyapola: Mr. Ivan T. Dassanaike.

Wattegama: Mr. A. Ratnayaka.

Welligama: Major Montague Jayawickrema.

Wellimada: Mr. M. B. Bambarapane.

Wellawatta-Galkissa: Mr. S. De S. Jayasinghe.

Wijeratne: Mr. Cyril de Wijeratne.

Wijeratne is likely to be nominated for Colombo North.

# Sir John is re-elected president

(By a Sunday "Observer" reporter)

SIR John Kotelawala was unanimously re-elected President of the United National Party yesterday. The other office-bearers elected were:

Vice Presidents: Mr. H. W. Amarasuriya; Mr. C. W. W. Kannangara; Dr. M. C. M. Kaleel; Mr. J. R. Jayewardene; Mr. A. Ratnayake; Bulankulame Dissawe; and Sir Bennet Soysa.

General Secretary: Sir Ukwatte Jayasundera. Q.C. Asst. Secretary: Mr. Anandatissa de Alwis; Treasurer: Mr. Justin Kotelawala.

A committee of 75 was also elected.

# QUEEN'S HOUSE PROCLAMATION

The Proclamation issued from Queen's House last night read as follows:—

In the Name of Her Majesty ELIZABETH the Second, Queen of Ceylon and of Her other Realms and Territories, Head of the Commonwealth

**PROCLAMATION**  
By His Excellency Sir OLIVER ERNEST GOONETILLEKE, Knight Grand Cross of the Most Distinguished Order of Saint Michael and Saint George, Knight Commander of the Royal Victorian Order, Knight Commander of the Most Excellent Order of the British Empire, Governor-General and Commander-in-Chief of the Island of Ceylon and its Dependencies.

**O. E. GOONETILLEKE,**  
KNOW Ye that by virtue of the powers vested in me by section 15 of the Ceylon (Constitution) Order in Council 1946 and in pursuance of the provisions of section 27 of the Ceylon (Parliamentary Elections) Order in Council 1946, I, Oliver Ernest Goonetilleke, Governor-General do by this Proclamation:—

- (1) dissolve Parliament with effect from the midnight of the Eighteenth day of February, 1956, and summon a new Parliament to meet on the Nineteenth day of April, 1956;
- (2) fix the days in the period commencing on April Fourth, 1956, and ending on April Eleventh, 1956, as the dates for the general election of Members of Parliament;
- (3) specify the Eighth day of March, 1956, as the date on which candidates for election are to be nominated; and
- (4) specify each place mentioned in the second column of the Schedule hereto as the place of nomination of candidates seeking election for the electoral district mentioned in the corresponding entry in the first column of that Schedule.

Given at Colombo this Eighteenth day of February, 1956.  
By His Excellency's Command,  
**N. W. ATUKORALA,**  
Secretary to the Governor-General.

The following offices are listed as places of nominations:—

Colombo North, Colombo Central, Colombo South, Wellawatte-Galkissa, Registrar General's Office, Colombo; Ja-Ela, Negombo, Mirigama, Gampaha, Attanagalla, Kelaniya, Avissawella, Kotte, The Kachcheri, Colombo; Horana, The Kachcheri, Kalutara; Moratuwa, The Kachcheri, Colombo; Panadura, The Kachcheri, Kalutara; Kalutara, Matugama, Agalawatte, The Elections Office, Kalutara; Dambulla, Matale, The Kachcheri, Matale; Minipe, Wattegama, Kadugannawa, Kandy, Galaha, Gampola, The Kachcheri, Kandy; Maturata, Nuwara Eliya, The Kachcheri, Nuwara Eliya; Talawakelle, Kotagala District Court, Nuwara Eliya; Maskeliya, The Kachcheri, Kandy; Ambalangoda-Balappitiya, District Court, Galle; Baddegama, The Kachcheri, Galle; Udugama, The Customs Office, Galle; Galle, The Kachcheri, Galle; Welligama, The Customs Office, Galle; Akuressa, Matara, Hakmana, Deni-

yaya, The Kachcheri, Matara; Bell-atta, Hambantota, The Kachcheri, Hambantota; Kayts, The Kachcheri, Jaffna; Vaddukoddai, Kankasanturai, The Elections Office, Jaffna; Jaffna, The Kachcheri, Jaffna; Kopal, The Committee Room of the Municipal Council, Jaffna; Point Pedro, Chavakachcheri, The Kachcheri, Jaffna; Mannar, The Kachcheri, Mannar; Vavuniya, The Kachcheri, Vavuniya; Trincomalee, The Kachcheri, Trincomalee; Mutur, The Kachcheri, Trincomalee; Kalkudah, Batticaloa, Paddiruppu, Kalmunai, Pottuvil, The Kachcheri, Batticaloa; Puttalam, The Kachcheri, Puttalam, Nikaweratiya, Office of the Assistant Commissioner of Local Government, Kurunegala; Dodangaslanda, Kurunegala, The Kachcheri, Kurunegala; Dambadeniya, District Court Kurunegala; Wariyapola, Dandagamawa, Additional District Court, Kurunegala; Bingiriya, District Court, Kurunegala; Chillaw, Nattandiya, The Kachcheri, Puttalam; Medawachchhiya, Anuradhapura, Kalawewa, Horawapotana, The Town Hall, Anuradhapura; Polonnaruwa, The Kachcheri, Polonnaruwa; Alutnuwara, Badulla, The Kachcheri, Badulla; Bandarawela, District Court, Badulla; Wellimada, Haputale, The Urban Council Office, Badulla; Buttala, The Kachcheri, Badulla; Mawanella, The Kachcheri, Kegalle; Dedigama, The Kachcheri, Kegalle; Ruwanwella, Dehiowita, Magistrate's Court, Kegalle; Kiriella, District Court, Ratnapura; Ratnapura, Nivigala, The Kachcheri, Ratnapura; Balangoda, Magistrate's Court, Ratnapura.

RA'-0456

0276

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan

NOMINATIONS FOR NEW PARLIAMENT NOW SCHEDULED FOR MARCH 8

# GOVERNOR-GENERAL DISSOLVES PARLIAMENT

## UNP seeks new mandate

(By a Sunday "Observer" reporter)

THE GOVERNOR-GENERAL, SIR OLIVER GOONETILLEKE, ON THE ADVICE OF THE PRIME MINISTER, SIR JOHN KOTELAWALA, DISSOLVED PARLIAMENT AT MIDNIGHT YESTERDAY, FEBRUARY 18, 1956.

- Parliament stands dissolved until April 19.
- Nominations of candidates for the new Parliament are scheduled for March 8.

YESTERDAY the Prime Minister rushed from the Kelaniya meeting straight to Queen's House where he advised the Governor-General that his party had decided that Sinhalese only should be the state language of Ceylon.

He advised that Parliament be dissolved in order that the party could get a mandate from the country following the new decision.

Nominations will be received by the Returning Officer at each of the 89 places of nomination between 12 noon and 1.00 p.m. on nomination day.

The present Cabinet will not meet again except in case of a national emergency or a problem of great and urgent importance.

Ministers will continue to be responsible for the Ministries under their charge, and will together with their Parliamentary Secretaries, draw their salaries until the next Cabinet takes over.

### No privileges

All other M.P.s from tonight forfeit all privileges and concessions enjoyed by them as M.P.s. They will also cease to draw their salaries as from tonight. For February they will receive their pay only up to today. Some of the concessions they lose are free telephone calls, telegrams, letters, railway travel and lodging at "Gravasi", the M.P.s' Club.

Senators however will continue to draw their salaries as the senators serve for the terms of office they are elected for although there will be no sittings of the Senate when Parliament stands dissolved. (For proclamation, see page 4).

RA'-0456

0277

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター  
Japan Center for Asian Historical Records  
National Archives of Japan